

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		学部の学科の設置							
フリガナ設置者		ガッコウホリゾン センシュウダガク 学校法人 専修大学							
フリガナ大学の名称		イシノマキセンシュウダガク 石巻専修大学（Ishinomaki Senshu University）							
大学本部の位置		宮城県石巻市南境新水戸1番地							
大学の目的		本大学は、諸科学の研究をとおして、地域及び国際社会の発展に寄与するとともに、高度な専門知識と豊かな教養を身につけた有為な人材を育成することを目的とする。							
新設学部等の目的		経営学部 ア 経営学部は、経営学全般の幅広い専門知識および情報とビジネスに関する知識を教授するとともに実践的な教育を通じて、社会の諸課題を解決するためのスキルを身に付けた企業経営や地域社会へ貢献できる人材の育成を目的とする。 イ 経営学部は、企業経営や地域社会へ貢献できる人材の育成を目的とし、経営学全般の幅広い知識および情報とビジネスに関する知識を身に付けた上で、自ら課題を発見し解決するための思考力、情報を活用し論理的な思考を展開できる能力を修得させる。 経営学部 情報マネジメント学科 ア 情報マネジメント学科では、経済社会の一員として求められる汎用的技能と態度や志向性及び人間の文化や社会と自然に関する知識の習得とともに、事業体の運営や管理に関する知識の習得に加えて、情報処理の原理を科学的に理解し、情報システムの利用による経営内外の関連データを経営戦略の策定や実現のために活用することができる能力を有した人材を養成する。 イ 情報マネジメント学科では、経営学分野に関する教育研究を通して、幅広い教養基盤に支えられた豊かな人間性や社会性と高い職業観、生涯にわたり自発的な学習を継続するための能力を養うとともに、経営学分野に関する基礎的な知識の習得のもとに、統計解析やITスキルなどの知識や技能を経営実践の場面に活用できる創造的な能力を育てることを教育上の目的とする。 ウ 情報マネジメント学科の卒業後の進路としては、営利・非営利の事業体等に所属し、経営活動の管理・運営に携わり、経営企画や事業開発などの経営戦略の策定においてデータに基づく適切な評価や判断ができるとともに、経営改革や経営課題の発見と解決にむけてデータ分析の手法を活用することができる人材として活躍することが想定される。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	経営学部 [School of Business Administration]	年	人	年次人	人	学士（経営学） 【Bachelor of Business Administration】	年次 第 年次	宮城県石巻市南境新水戸1番地	
	情報マネジメント学科 [Department of Information and Management Science]	4	45	-	180		令和3年4月第1年次		
計			45	-	180				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		経営学部 情報マネジメント学科（45）（令和3年4月 届出） 経営学部 経営学科【定員減】（△45）（令和3年4月）							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	経営学部 情報マネジメント学科	35 科目	55 科目	0 科目	90 科目	124 単位			

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼 任 教 員 等				
			教授	准教授	講師	助教	計		助手			
	新 設 分	経営学部情報マネジメント学科	人 6 (6)	人 1 (1)	人 0 (0)	人 2 (2)	人 9 (9)	人 0 (0)	人 35 (35)			
組 織 の 概 要	既 設 分	計	6 (6)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	9 (9)	0 (0)	- (-)			
		理工学部食環境学科	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	27 (27)			
		生物科学科	8 (8)	4 (3)	0 (0)	0 (1)	12 (12)	0 (0)	29 (29)			
		機械工学科	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	30 (30)			
		情報電子工学科	6 (6)	1 (0)	1 (1)	1 (2)	9 (9)	0 (0)	29 (29)			
		経営学部経営学科	9 (9)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	12 (12)	0 (0)	25 (25)			
		人間学部人間文化学科	10 (10)	2 (1)	1 (0)	0 (2)	13 (13)	0 (0)	32 (32)			
	分	人間教育学科	12 (12)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	44 (44)			
		計	60 (60)	14 (11)	2 (1)	3 (7)	79 (79)	0 (0)	- (-)			
	合 計		66 (66)	15 (12)	2 (1)	5 (9)	88 (88)	0 (0)	- (-)			
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計					
	事 務 職 員		人 53 (53)		人 0 (0)		人 53 (53)					
	技 術 職 員		- (-)		- (-)		- (-)					
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)		- (-)		1 (1)					
	そ の 他 の 職 員		- (-)		- (-)		- (-)					
	計		54 (54)		0 (0)		54 (54)					
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地		133,108 m ²		0 m ²		0 m ²		133,108 m ²			
	運 動 場 用 地		131,043 m ²		0 m ²		0 m ²		131,043 m ²			
	小 計		264,151 m ²		0 m ²		0 m ²		264,151 m ²			
	そ の 他		158,458 m ²		0 m ²		0 m ²		158,458 m ²			
	合 計		422,609 m ²		0 m ²		0 m ²		422,609 m ²			
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計			
			40,105 m ² (40,105 m ²)		0 m ² (0 m ²)		0 m ² (0 m ²)		40,105 m ² (40,105 m ²)			
教室等		講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体（情報処 理学習施設の８室 に語学学習機能あ り）
		31 室		23 室		51 室		8 室 （補助職員２人）		0 室 （補助職員０人）		
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称				室 数				届出学科全体	
			経営学部 情報マネジメント学科				9 室					

図書・設備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定は不能なため、大学全体の数	
	経営学部 情報マネジメント学科		186,777 [64,323] (182,777 [63,323])	2,197 [882] (2,197 [882])	63 [63] (63 [63])	2,383 (2,263)	30 (30)	0 (0)		
	計		186,777 [64,323] (182,777 [63,323])	2,197 [882] (2,197 [882])	63 [63] (63 [63])	2,383 (2,263)	30 (30)	0 (0)		
図書館			面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
			3,496 m ²		261 席		約200,000 冊			
体育館			面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
			3,188 m ²		雨天体育場		テニスコート		弓道場	
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	※共同研究費は大学全体 ※図書購入費は届出学科を含む学部全体 図書購入費には電子ジャーナル・データベースの運用コスト含む。 ※設備購入費は届出学科分
		教員1人当たり研究費等		500千円	500千円	500千円	500千円	－ 千円	－ 千円	
		共 同 研 究 費 等		15,200千円	15,200千円	15,200千円	15,200千円	－ 千円	－ 千円	
		図 書 購 入 費	25,416千円	25,416千円	25,416千円	25,416千円	25,416千円	－ 千円	－ 千円	
		設 備 購 入 費	20,000千円	0千円	0千円	0千円	0千円	－ 千円	－ 千円	
	学生1人当たり 納付金		第1年次	第2年次	第3年次		第4年次		第5年次	第6年次
			1,210千円	980千円	980千円		980千円		－ 千円	－ 千円
学生納付金以外の維持方法の概要				私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等						
既設大学等の状況	大 学 の 名 称		石巻専修大学							※令和2年度入学定員減（修士課程－物質工学専攻2人、博士後期課程－生命環境科学専攻1人、博士後期課程－物質機能工学専攻1人、修士課程－経営学専攻2人、博士後期課程－経営学専攻1人） ※令和2年度より学生募集停止（機械システム工学専攻）
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地	
	理工学部	年	人	年次人	人		倍		宮城県石巻市南境新水戸1番地	
	食環境学科	4	40	－	160	学士(工学)	0.41	平成25年度		
	生物科学科	4	55	－	220	学士(理学)	1.16	平成25年度		
	機械工学科	4	40	－	160	学士(工学)	0.65	平成元年度		
	情報電子工学科	4	35	－	140	学士(工学)	0.93	平成元年度		
	経営学部									
	経営学科	4	190	－	760	学士(経営学)	0.71	平成元年度		
	人間学部									
	人間文化学科	4	40	－	160	学士(人間文化学)	0.91	平成25年度		
	人間教育学科	4	40	－	160	学士(人間教育学)	0.88	平成25年度		
	理工学研究科									
	修士課程									
	物質工学専攻	2	3	－	8	修士(工学)	0.16	平成5年度		
	機械システム工学専攻	2	－	－	－	修士(工学)	－	平成5年度		
	生命科学専攻	2	5	－	10	修士(理学)	0.40	平成5年度		
	博士後期課程									
	生命環境科学専攻	3	2	－	8	博士(理学)	0.00	平成7年度		
	物質機能工学専攻	3	2	－	8	博士(工学)	0.11	平成7年度		
	経営学研究科									
	修士課程									
	経営学専攻	2	3	－	8	修士(経営学)	0.33	平成5年度		
	博士後期課程									
	経営学専攻	3	2	－	8	博士(経営学)	0.00	平成9年度		
	大 学 の 名 称		専修大学							
学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地		
経済学部一部	年	人	年次人	人		倍		神奈川県川崎市多摩区東三田二丁目1番地1		
現代経済学科	4	265	－	265	学士(経済学)	1.03	令和2年度			
生活環境経済学科	4	266	－	266	学士(経済学)	1.04	令和2年度			
経済学科	4	－	－	－	学士(経済学)	－	昭和24年度			
国際経済学科	4	220	－	835	学士(経済学)	1.06	平成8年度			
法学部一部										
法律学科	4	533	－	2,219	学士(法学)	1.04	昭和24年度			
政治学科	4	164	－	623	学士(政治学)	1.03	平成18年度			
経営学部										
経営学科	4	373	－	1,492	学士(経営学)	1.05	昭和37年度			
ビジネスデザイン学科	4	180	－	720	学士(経営学)	1.02	平成31年度			

商学部一部									※令和2年度入学生定員減 (マーケティング学科17人、会計学科10人)
マーケティング学科	4	438	-	1,803	学士(商学)	1.07	昭和40年度		
会計学科	4	210	-	870	学士(商学)	1.06	昭和43年度		
文学部									
日本語学科	4	-	-	-	学士(文学)	-	平成22年度		※令和2年度より学生募集停止(日本語学科)
日本文学文化学科	4	122	-	464	学士(文学)	1.08	平成22年度		
英語英米文学科	4	152	-	578	学士(文学)	1.05	昭和41年度		※令和2年度入学生定員増 (日本文学文化学科8人、英語英米文学科10人、哲学科5人、歴史学科10人、環境地理学科4人)
哲学科	4	76	-	289	学士(文学)	1.13	平成22年度		
歴史学科	4	142	-	538	学士(文学)	1.13	平成22年度		
環境地理学科	4	55	-	208	学士(文学)	1.17	平成22年度		
ジャーナリズム学科	4	124	-	496	学士(ジャーナリズム学)	1.02	平成31年度		
人文・ジャーナリズム学科	4	-	-	-	学士(文学)	-	平成22年度		※平成31年度より学生募集停止(人文・ジャーナリズム学科)
ネットワーク情報学部									
ネットワーク情報学科	4	235	-	940	学士(情報学)	1.02	平成13年度		
人間科学部									※令和2年度入学生定員増 (心理学科5人、社会学科25人)
心理学科	4	77	-	293	学士(心理学)	0.98	平成22年度		
社会学科	4	147	-	513	学士(社会学)	1.07	平成22年度		
国際コミュニケーション学部									※平成31年4月届出済み (日本語学科、異文化コミュニケーション学科)
日本語学科	4	71	-	71	学士(文学)	1.04	令和2年度		
異文化コミュニケーション学科	4	150	-	150	学士(言語文化)	1.07	令和2年度		
経済学部二部									※平成31年度より学生募集停止(経済学部二部経済学科、法学部二部法律学科、商学部二部マーケティング学科)
経済学科	4	-	-	-	学士(経済学)	-	昭和24年度		
法学部二部									
法律学科	4	-	-	-	学士(法学)	-	昭和24年度		
商学部二部									
マーケティング学科	4	-	-	-	学士(商学)	-	昭和40年度		
経済学研究科									
修士課程									
経済学専攻	2	30	-	60	修士(経済学)	0.30	昭和27年度		
博士後期課程									
経済学専攻	3	3	-	9	博士(経済学)	0.44	昭和30年度		
法学研究科									
修士課程									
法学専攻	2	25	-	50	修士(法学)	0.34	平成16年度		
博士後期課程									
民事法学専攻	3	3	-	9	博士(法学)	0.00	昭和30年度		
公法学専攻	3	3	-	9	博士(法学)	0.44	昭和49年度		
文学研究科									
修士課程									
日本語日本文学専攻	2	10	-	20	修士(文学)	0.55	昭和46年度		
英語英米文学専攻	2	5	-	10	修士(文学)	0.00	昭和46年度		
哲学専攻	2	5	-	10	修士(哲学)	0.30	昭和46年度		
歴史学専攻	2	10	-	20	修士(歴史学)	0.35	平成4年度		
地理学専攻	2	5	-	10	修士(地理学)	0.50	平成4年度		
社会学専攻	2	5	-	10	修士(社会学)	0.70	平成4年度		
心理学専攻	2	10	-	20	修士(心理学)	0.85	平成4年度		
博士後期課程									
日本語日本文学専攻	3	3	-	9	博士(文学)	0.88	昭和48年度		
英語英米文学専攻	3	2	-	6	博士(文学)	0.16	昭和48年度		
哲学専攻	3	2	-	6	博士(哲学)	0.16	昭和48年度		
歴史学専攻	3	5	-	15	博士(歴史学)	0.06	平成6年度		
地理学専攻	3	3	-	9	博士(地理学)	0.00	平成6年度		
社会学専攻	3	3	-	9	博士(社会学)	0.22	平成6年度		
心理学専攻	3	3	-	9	博士(心理学)	0.55	平成6年度		

	経営学研究科									
	修士課程									
	経営学専攻	2	20	-	40	修士（経営学）	0.57	昭和50年度		
	博士後期課程									
	経営学専攻	3	3	-	9	博士（経営学）	0.22	昭和52年度		
	商学研究科									
	修士課程									
	商学専攻	2	10	-	20	修士（商学）	1.10	昭和50年度		
	会計学専攻	2	15	-	30	修士（商学）	0.79	平成22年度		
	博士後期課程									
	商学専攻	3	2	-	6	博士（商学）	0.16	昭和52年度		
	会計学専攻	3	2	-	6	博士（商学）	0.50	平成22年度		
	法務研究科									
	専門職学位課程									
	法務専攻	3	28	-	84	法務博士（専門職）	0.87	平成16年度		
附属施設の概要		該当なし								

教 育 課 程 等 の 概 要														
(経営学部 情報マネジメント学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基 本 教 育 科 目	情報活用法Ⅰ	1前	2				○		1			1		
	情報活用法Ⅱ	1前	2				○		1					
	情報社会論	1後		2		○								
	基礎統計学	1前	2				○			1				
	基礎数学	1前	2				○			1				
	日本語技法A	1前	2				○							
	日本語技法B	1後		2			○							
	英語A	1前	2				○							
	英語B	1後	2				○							
	英語コミュニケーションA	1・2・3・4前		2			○							
	英語コミュニケーションB	1・2・3・4後		2			○							
	英語コミュニケーションC	1・2・3・4前		2			○							
	英語コミュニケーションD	1・2・3・4後		2			○							
	中国語AⅠ	1・2・3・4前		2			○							
	中国語AⅡ	1・2・3・4後		2			○							
	中国語BⅠ	1・2・3・4前		2			○							
	中国語BⅡ	1・2・3・4後		2			○							
	キャリア設計	1後		2			○							
	キャリア開発	2通		2			○							
	キャリア研究	3前		2			○							
	国際体験研修	1・2・3・4通		2			○							
	海外語学研修	1・2・3・4通		2			○							
	異文化体験研修	1・2・3・4通		2			○							
	フレッシュマンセミナー	1通		4			○		3			2		
	いしのまき学	1前		2			○							
	復興ボランティア学	1・2・3・4前		2			○							
	ボランティア論	1・2・3・4後		2			○							
	ボランティア演習	2・3・4後		2			○							
	総合科目	1・2・3・4前		2		○			1					
	日本と世界の歴史	1・2・3・4前		2		○								
	文化の理解	1・2・3・4後		2		○								
	哲学-知の起源-	1・2・3・4前		2		○								
	心理学-心の科学-	1・2・3・4前		2		○								
	社会学の世界	1・2・3・4前		2		○								
	法と社会	1・2・3・4前		2		○								
	法と人権	1・2・3・4後		2		○								
	地域と政策	1・2・3・4後		2		○								
	生命と地球	1・2・3・4前		2		○								
	環境と科学	1・2・3・4後		2		○								
	健康科学と身体運動	1・2・3・4前		2			○							
	小計（40科目）	—	14	68	0	—			4	2	0	2	0	
専 門 教 育 科 目	経営学入門	1前	2			○			1					オムニバス
	会計学入門	1前		2		○			1					
	マーケティング入門	1後	2			○				1				
	マーケティングリサーチ	2前		2		○								
	経済学入門	1後	2			○				1				
	ビジネスと情報	1後	2			○				1				

教 育 課 程 等 の 概 要													
(経営学部 情報マネジメント学科)													
専 門 教 育 科 目	情報と法	2前		2		○							
	基礎数学演習	1前	2				○		1				
	データ分析基礎	2前		2			○				1		
	プログラミング基礎	1後	2				○		1				
	アルゴリズムとデータ構造	2前	2				○		1				
	経営情報システム論	2前		2		○			1				
	マルチメディア通信論	2前		2		○			1				
	ロジカルシンキング演習	1後	2				○		2	2			オムニバス
	経営戦略論	2前		2		○			1				
	経営管理論	2前		2		○							
	地域経営論	2後		2		○							
	サービスマーケティング	2後		2		○							
	簿記基礎	2後		4		○							
	コンピュータ会計	3後		2			○		1				
	経営組織論	3後		2		○							
	アントレプレナーシップ	3後		2		○							
	人材マネジメント	3前		2		○							
	財務管理論	3後		2		○							
	地域産業論	3後		2		○						1	
	経済理論	2前		2		○				1			
	金融論	2後		2		○							
	経営科学	3前		2			○			1			
	応用統計学	2前		2			○			1			
	経営情報論	2後		2		○			1				
	経済データ分析	2後		2			○			1			
	データ分析応用	3前		2			○					1	
	データマーケティング	3後		2			○						
	データベース論	2後		2			○		1				
	オペレーティングシステム論	2後		2			○		1				
	通信ネットワーク論	2後		2			○		1				
	地域ICT戦略論	2後		2		○						1	
	プログラミング応用	3前		2			○			1			
	情報システム管理論	3前		2			○		1				
情報システム設計論	3後		2			○		1					
情報マネジメントセミナー	2通	4				○		5	2		2		
ゼミナールⅠ	3通	4				○		5	2		2		
ゼミナールⅡ	4通	4				○		5	2		2		
卒業研究	4通	4				○		5	2		2		
情報マネジメント特別科目Ⅰ（経営システム）	1前		2			○		1					
情報マネジメント特別科目Ⅱ（データ分析）	1後		2			○			1				
情報マネジメント特別科目Ⅲ（プログラミング）	2前		2			○		1					
情報マネジメント特別科目Ⅳ（情報システム）	2後		2			○		1					
情報マネジメント特別科目Ⅴ（人工知能）	3前		2			○		1					
情報マネジメント特別科目Ⅵ（地域産業）	3後		2			○					1		
小計（50科目）		—	32	78	0	—			5	2	0	2	0
合計（90科目）		—	46	146	0	—			5	2	0	2	0
学位又は称号		学士（経営学）			学位又は学科の分野			経済学関係、工学関係					
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法								授業期間等					
基本教育科目の必修科目14単位、選択科目から30単位以上、 専門教育科目の必修科目32単位、選択科目から48単位以上を修得し、合計 124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：40単位（年間））								1 学年の学期区分			2学期		
								1 学期の授業期間			15週		
								1 時限の授業時間			90分		

教 育 課 程 等 の 概 要														
(経営学部 経営学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基本 教育 科目	情報活用法Ⅰ	1前	2				○							兼2
	情報活用法Ⅱ	1前	2				○							兼1
	情報社会論	1後		2		○								兼1
	基礎統計学	1前	2				○							兼1
	日本語技法A	1前	2				○							兼1
	日本語技法B	1後		2			○							兼1
	英語A	1前	2				○							兼4
	英語B	1後	2				○							兼4
	英語コミュニケーションA	1・2・3・4前		2			○							兼4
	英語コミュニケーションB	1・2・3・4後		2			○							兼3
	英語コミュニケーションC	1・2・3・4前		2			○							兼1
	英語コミュニケーションD	1・2・3・4後		2			○							兼1
	中国語AⅠ	1・2・3・4前		2			○							兼2
	中国語AⅡ	1・2・3・4後		2			○							兼2
	中国語BⅠ	1・2・3・4前		2			○							兼1
	中国語BⅡ	1・2・3・4後		2			○							兼1
	キャリア設計	1後		2			○					1		
	キャリア開発	2通		2			○					1		
	キャリア研究	3前		2			○					1		
	国際体験研修	1・2・3・4通		2			○							兼1
	海外語学研修	1・2・3・4通		2			○							兼1
	異文化体験研修	1・2・3・4通		2			○							兼1
	フレッシュマンセミナー	1通	4				○		5			2		
	いしのまき学	1前	2				○							兼1
	復興ボランティア学	1・2・3・4前	2				○		1					
	ボランティア論	1・2・3・4後	2				○							兼1
	ボランティア演習	2・3・4後	2				○							兼1
	総合科目	1・2・3・4前	2			○								兼1
	日本と世界の歴史	1・2・3・4前	2			○								兼1
	文化の理解	1・2・3・4後	2			○								兼1
	哲学-知の起源 -	1・2・3・4前	2			○								兼1
	心理学-心の科学-	1・2・3・4前	2			○								兼1
	社会学の世界	1・2・3・4前	2			○								兼1
	法と社会	1・2・3・4前	2			○								兼1
	法と人権	1・2・3・4後	2			○			1					
	地域と政策	1・2・3・4後	2			○								兼1
	生命と地球	1・2・3・4前	2			○								兼1
	環境と科学	1・2・3・4後	2			○								兼1
	健康科学と身体運動	1・2・3・4前	2				○							兼4
小計 (39科目)		—	12	68	0	—			2	0	0	1	0	兼31

専門 教育 科目	経営学入門	1前	2			○			1						
	会計学入門	1前	2			○			1	1					
	マーケティング入門	1後	2			○			1						
	経済学入門	1後	2			○			1						
	ビジネスと情報	1後		2		○								兼1	
	ビジネスと法	2前		2		○			1						
	企業論	2前		2		○			1						
	アントレプレナーシップ	2後		2		○			1						
	経営管理論	2前		2		○			1						
	金融論	2後		2		○			1						
	流通論	2後		2		○			1						
	経営組織論	2後		2		○			1						
	組織心理学	2後		2		○						1			
	経営情報論	2後		2		○								兼1	
	ファイナンス	2後		2		○			1						
	サービスマーケティング	2後		2		○						1			
	経営戦略論	3前		2		○								兼1	
	人材マネジメント	3前		2		○						1			
	財務管理論	3後		2		○			1						
	ビジネスプランニング	3後		2		○			1						
	マーケティングリサーチ	3前		2		○							1		
	簿記Ⅰ	1後		4		○					1				
	会計学	2前		2		○								兼1	
	簿記Ⅱ	2前		2		○			1						
	税法	2後		2		○			1						
	原価計算論	2後		2		○					1				
	コンピュータ会計	2後		2			○							兼1	
	管理会計論	3前		2		○					1				
	税務会計論	3前		2		○			1						
	地域経営論	2後		2		○			1						
	データ分析基礎	2前		2			○							兼1	
	観光学	2前		2		○			1						
	国際経済論	2前		2		○			1						
	地域ICT戦略論	2後		2		○								兼1	
	非営利組織論	2前		2		○								兼1	
	ホスピタリティ論	2後		2		○								兼1	
	観光開発論	2後		2		○			1						
	消費者行動論	3前		2		○						1			
	地域産業論	3後		2		○								兼1	
	アートマネジメント	3後		2		○			1						
	地域社会論	3前		2		○								兼1	
	地域メディア論	3前		2		○								兼1	
	ビジネス演習	2前	2					○	4	1					
	プレゼミナール	2後	2					○	9	1		2		兼1	
	ゼミナールⅠ	3通	4					○	9	1		2		兼1	
	ゼミナールⅡ	4通	4					○	9	1		2		兼1	
	卒業研究	4通	4					○	9	1		2		兼1	
小計（47科目）		—	24	78	0	—			9	1	0	2	0	兼7	—
合計（137科目）		—	36	146	0	—			9	1	0	2	0	兼35	—
学位又は称号	学士（経営学）			学位又は学科の分野			経済学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
基本教育科目の必修科目12単位、選択科目から32単位以上、専門教育科目の必修科目24単位、選択科目から56単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：40単位（年間））								1学年の学期区分				2学期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

10/ 34

基本 教育 科目	日本文学へのいざない	1前		2		○								兼1	
	心理学—心の科学—	1前		2		○								兼1	
	社会学の世界	1前		2		○								兼1	
	法と社会	1前		2		○								兼1	
	法と人権	1後		2		○								兼1	
	経済と社会	1前		2		○								兼1	
	地理学—身近な地域から世界まで—	1前		2		○								兼1	
	地域と政策	1後		2		○								兼1	
	生命と地球	1前		2		○								兼1	
	物質とエネルギー	1後		2		○								兼2	オムニバス
	環境と科学	1後		2		○								兼1	
	健康科学と身体運動	1前		2			○							兼1	
	生活習慣と健康管理	1後		2		○								兼1	
	小計（59科目）	—	12	108	0	—			2	0	0	2	0	兼42	—
専門 教育 科目	基礎化学A	1前		2		○								兼1	
	基礎化学B	1後		2		○								兼1	
	基礎生物学A	1前		2		○								兼1	
	基礎生物学B	1後		2		○								兼1	
	基礎物理学A	1前	2			○			1					兼1	オムニバス
	基礎物理学B	1後	2			○			1					兼1	オムニバス
	数学	1後	2			○			1					兼1	オムニバス
	理工数学	1後		2		○								兼1	
	化学	1後		2		○								兼2	オムニバス
	生物学	1後		2		○								兼1	
	物理学	1後		2		○								兼1	
	情報電子工学実験Ⅰ	2前	1				○		6		1	2			
	情報電子工学実験Ⅱ	2後	1				○		6		1	2			
	コンピュータ概論Ⅰ	1前	2			○			1			1			オムニバス
	コンピュータ概論Ⅱ	1後	2			○						1			オムニバス
	電子計測の基礎	1後		2		○			1						
	電磁気学ⅠA	1後	2			○			1						
	電磁気学ⅠB	1後	2			○			1						
	応用数学	2前		2		○								兼1	
	情報システム概論ⅠA	2前	2			○			1						
	情報システム概論ⅠB	2前	2			○			1			1			オムニバス
	電気回路A	2前	2			○			1						
	電気回路B	2前	2			○			1						
	電磁気学Ⅱ	2前		2		○			1						
	熱力学	2前		2		○								兼1	
	解析学	2後		2		○								兼1	
	基礎物理化学	2後		2		○								兼1	
	電子物性工学	2前		2		○					1				
	電子回路	2後		2		○			1						
	システム制御工学	2後		2		○								兼1	
	半導体デバイス工学	2後		2		○			1						
	プログラミング論Ⅰ	2後		2		○						1			
	情報システム概論ⅡA	2後	2			○			1						
	情報システム概論ⅡB	2後	2			○			1						
	信号処理基礎論	2後		2		○			1						
	集積回路工学	3前		2		○			1						
	センサ工学	3前		2		○			1						
	電気・電子回路応用	3前		2		○			1						
	パワーエレクトロニクス	3前		2		○			1						
	画像情報工学	3前		2		○			1						
	磁気工学	3前		2		○					1				
	自動車工学Ⅰ	3前		2		○								兼1	
	情報ネットワーク	3後		2		○						1			
	オプトエレクトロニクス	3後		2		○					1				
	シミュレーション工学	3後		2		○			1						
	プログラミング論Ⅱ	3後		2		○			1						
	自動車工学Ⅱ	3後		2		○								兼1	
	自動車制御工学	3後		2		○			1						
	情報通信工学	3後		2		○								兼1	
	組み込みソフトウェア	3後		2		○			1						

専門 教育 科目	情報技術者専門科目Ⅰ	2後		2		○			1						
	情報技術者専門科目Ⅱ	3前		2		○			1						
	情報電子工学特別科目Ⅰ	1後		2		○			1						
	情報電子工学特別科目Ⅱ	2前		2		○			1						
	情報電子工学特別科目Ⅲ	2後		2		○			1						
	情報電子工学特別科目Ⅳ	3後		2		○								兼1	
	情報電子工学実験Ⅲ	3前	2				○		6		1	2			
	情報電子工学実験Ⅳ	3後	2				○		6		1	2			
	学外見学・実習	3後		1			○		1						
	情報電子工学実験Ⅴ	4前	1				○		6		1	2			
	情報電子工学演習	4通	2				○		6		1	2			
	卒業研究	4通	6				○		6		1	2			
	情報職業論	2後			2	○								兼1	
	職業指導	3前			2	○								兼1	
小計（64科目）		—	41	83	4	—			6	0	1	2	0	兼18	—
合計（123科目）		—	53	191	4	—			6	0	1	2	0	兼58	—
学位又は称号	学士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
基本教育科目の必修科目12単位、選択科目から26単位以上、専門教育科目の必修科目41単位、選択科目から47単位以上を修得し、合計126単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：49単位（年間））								1学年の学期区分				2学期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

授 業 科 目 の 概 要			
(経営学部情報マネジメント学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基本 教育 科目	情報活用法Ⅰ	本講義では、「アプリケーションを利用し、コンピュータの仕組みを理解する。これらを通じてコンピュータ社会に関わる諸問題解決のための基礎的素養を修得する」ことを到達目標とする。具体的には、Microsoft Wordの学修を通じて文書作成の基礎を修得し、Microsoft PowerPointの学修を通じてプレゼンテーション資料の作成およびプレゼンテーションの方法の基礎を修得する。	
	情報活用法Ⅱ	本講義では、情報活用法Ⅰでの学修を踏まえ、Microsoft Excelの操作を中心に学び、日々の学修やゼミナールでの演習に備えるだけではなく、今後のデータ活用の社会に出てからも生きるスキルを修得することを到達目標とする。	
	情報社会論	本講義では、多様化した現代社会の問題に対して柔軟に対処できるための情報について学修する。また、情報機器等を効果的に活用した実践力、コミュニケーション能力や情報の創造力・発信力等を養うなど、情報化社会に積極的に参画できる能力を修得する。情報が社会にどのような影響を与えているかを具体的に学修し、いかにすればこの恩恵に供することができるか、いかにして負の側面を回避するかについて修得することを到達目標とする。	
	基礎統計学	本講義では、データに基づいた意思決定のための基礎的な統計学を修得することを到達目標とする。データの全体像を把握するために表やグラフを作成すること、さらに分布の特徴をあらわす基本的な指標（平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差など）を取り上げ、推測で用いる代表的な確率分布、推測における推定と検定の基本的な考え方について学ぶ。	
	基礎数学	本講義では、方程式や不等式、関数などの基本的な解き方とその解釈、確率の基礎に重点を置き、今後のデータ分析の学修に必要な数学力と経営学上の問題を考える際、問題を数理モデル化し数学的に考える力を育成する。	
	日本語技法A	本講義では、大学生活や実生活に必要な日本語の基本を理解した上で、大学の授業で求められる論理的文章を読解する力と語彙力、論理的に文章表現できる技法の基本を学ぶ。学修した文法事項を適切に用いながらわかりやすい文章を書き、また、話すことができること、論理的表現や文章展開の基本を理解し、テーマに沿った文章を書くことができること、レポート作成や読解に必要な漢字語彙等を辞書で調べて、適切に用いることができることを到達目標とする。	
	日本語技法B	本講義では、日本語技法Aを踏まえ、論理的に文章を読み解き、表現するための知識や技法を向上させ、レポート等の作成に必要な実践的スキルを修得する。また、多様な形式の日本語文や表現に触れて学ぶことで、日本語の特性や日本文化について理解する。論説文の具体的な構成要素や表現技法を理解できること、学んだ知識や技法を、演習を通してレポート作成に活用することができること、多様な日本語の文章表現を知り、実践的に学べることを到達目標とする。	
	英語A	本講義では、英文法の最も基礎的な事項を再度学修し、専門の課程で必要となる文献の読解や社会でのコミュニケーションのための確かな土台を築くことを到達目標とする。授業は演習形式で、基礎的な事項の知識を獲得すると共に、練習を通して、実際の英語活動の中でそれが生かせるようになることを目指す。また、身近な例を挙げつつ、日本語と英語の言語構造の違いにも触れ、既に一度は学んでいる文法を、より深い次元で理解できるように心がけたい。	

授 業 科 目 の 概 要 (経営学部情報マネジメント学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基本 教育 科目	英語 B	本講義では、英語の基礎的な読解力を養うことを到達目標とする。授業は演習形式で行う。英語の読解力の涵養には、まず、やさしい英文を文法に忠実に、正確に理解することが必要である。そのような読解力を定着させることが、多くの文章に触れ、語彙を増やしていくことをも可能にしていくのである。本授業では、英文そのものは比較的やさしいが、大学生の興味や知識の度合にできるだけマッチしたテキストを選び、達成感をもって学べるように心がけたい。	
	英語コミュニケーション A	本講義では、会話を中心とする総合的な基礎英語の講義であり、演習形式で行う。身近な話題についてやさしい英語表現を用いて、受講生同士が話す時間を多く設ける。そのことによって、英会話に自信を持てるようになることが本講義の到達目標である。また、会話には欠かさない疑問文を十分使いこなせるようになることも指導上心がけたい。	
	英語コミュニケーション B	本講義では、英語コミュニケーション A のレベルを終了した受講生向きの講義であり、少なくとも英語で簡単な質問ができる程度の会話力を持つことを前提としている。授業は演習形式で行う。本講義では、総合的な英会話力のスキルアップと共に、特に、過去の出来事について語ることの練習に力を入れたい。自己紹介、経験したことの説明、観光についてのアドバイス等が英語でできるようになることが到達目標である。	
	英語コミュニケーション C	本講義では、英語コミュニケーション B の授業内容を踏まえ、職業生活や社会生活において必要となる、応用的な英語のコミュニケーション能力を修得することを到達目標とする。授業は演習形式で行う。ここでは実生活の様々な場面を想定し、受講生が中心となって会話を実践し、これを教員が指導・助言するかたちをとる。本講義では、英語の会話力・聴解力を養うとともに、要件を相手に伝え、感情を表現したりする自己表現力の涵養を図る。	
	英語コミュニケーション D	本講義では、英語コミュニケーション C の授業内容を踏まえ、職業生活や社会生活において必要となる、実践的な英語のコミュニケーション能力を修得することを到達目標とする。授業は演習形式で行う。ここでも英語コミュニケーション C 同様、受講生が中心となって会話を実践し、これを教員が指導・助言するかたちをとる。本講義では、英語の会話力・聴解力を養うとともに、細かいニュアンスを伝える構文の練習も取り入れ、討論でのやりとりを含めて、より高度な自己表現力の涵養を図る。	
	中国語 A I	本講義で学ぶ中国語は中国の標準語に当たる「普通話（プートンホア）」である。中国語の発音記号にあたる「ピンイン」を見て、正しい発音ができるようになることを最大の到達目標として、地道な発音練習に主眼をおいて初歩の会話修得に励む。	
	中国語 A II	中国語 A I に引き続き、中国語の正しい発音に注意しつつ、初級の会話修得を到達目標とする。具体的には、中国人と初めて出会ったとき、どのように挨拶すればいいのか、ホテルに行ったときの定型表現、タクシーを呼び行く先を告げるときの表現、自己紹介など、このような中国での生活のもっとも初歩的なシーンを選び、そのシーンに不可欠な表現を修得することを到達目標とする。授業では映画鑑賞も適宜取り入れ、現代中国の理解の一助とする。	
	中国語 B I	本講義では「普通話（プートンホア）」と呼ばれる規格化された標準中国語について、もっとも基礎的、初歩的な発音を入り口として発音のマスターに全力を注ぐ。すなわち単声音、四音、軽声、鼻音付きの母音、子音、声調の変化がそれである。その後、名詞文の肯定・否定・疑問、推量方言、動詞文の現在と応答（肯定）、動詞文の現在と応答（否定）などを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要 (経営学部情報マネジメント学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基本 教育 科目	中国語ＢⅡ	中国語ＢⅠで学修した発音を反復練習してより確かなものにするとともに、徐々に聴解力、語彙力、発話能力の向上に重点を置き、中国人とのコミュニケーションの入り口にまでたどり着くことを到達目標とする。具体的には、動詞文の肯定・否定・疑問、動作の場所・帰着、過去の経験、勧誘、過去完了、依頼、禁止・阻止、動作進行・状態持続、動詞文の否定・原因・理由・逆接、願望・必要性の表現、変化・必要の表現、二重目的語の表現、存現文の表現、限定・除外・添加・伝聞の表現などを学ぶ。	
	キャリア設計	本講義では、自己を知り、社会を知ること、各自が自分にとって望ましい生き方・働き方はどのようなものであるかを自覚的に捉えることを到達目標とする。具体的には、社会人・職業人として自立していく上で必要とされるのはどのような「力」であり、それをどのように生かしていけばよいのかを学ぶとともに、さまざまな課題学修を通して自己を理解し、大学生活の目標設定の方法と将来設計のための手法を修得する。	
	キャリア開発	本講義では、産業経済状況の動向と企業組織を考え、ビジネス現場で求められるマナーについて学ぶ。また、産業・経済社会の現状を知り、企業・業界研究、ビジネスマナーを学ぶ。自分のキャリアをデザインすることができるようになること、外部講師の話を聞くことで企業の現場におけるマナーについて知ることを到達目標とする。	
	キャリア研究	本講義では、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を育成する。就職活動の心構え、各種手続き、情報収集法、履歴書・エントリーシートの作成方法、自己分析の方法、業界・企業・職種研究のノウハウ、社会や会社の常識、社会人に必要なビジネスマナー等について学修する。	
	国際体験研修	本講義では、日本人学生と外国人留学生との相互コミュニケーション・異文化体験の機会を設け、国際交流を充実させる。日本人学生は、異なる文化背景を持つ留学生とともに学び、異文化理解を深めること、外国人留学生は、日本人学生とともに日本文化を学び、日本人への理解を深めることを到達目標とする。	
	海外語学研修	長期休暇等を利用して、本学が提携する海外の教育機関等で行われる語学研修等の海外体験型プログラムに参加することで、国際的な興味や関心を喚起するものである。事前指導では、海外語学研修にあたっての諸注意、研修の目的と課題に関する説明、準備的な語学教育等を行う。また事後指導としては、参加した学生がそれぞれの研修成果を発表し、その発表に関して参加者同士で意見交換を行うための研修成果発表会を開催するとともに、研修成果をレポートの形でまとめてもらう。海外の人々と英語等の外国語によってコミュニケーションを図ることができるようになることを到達目標とする。	
	異文化体験研修	異文化体験研修は、日本人学生と外国人留学生との相互コミュニケーション・異文化体験の機会を設け、国際交流の充実を図ることによって、異文化理解を深めることを到達目標とする。日本人学生は異なる文化背景を持つ留学生とともに学び、異文化理解を深める。外国人留学生は日本人学生と共に日本文化を学び、日本人への理解を深める。	
	フレッシュマンセミナー	経営学部の学生が共通に修得すべき読む力、書く力、発想する力といった学修スキルの修得と、他者との関わりの中で汎用的な能力の向上を到達目標とする。到達目標を確かなものとするために、体験を振り返り、そこから学んだことを言語化し、次回の授業でも活用できるように「振り返りワークシート」を毎時間終了時に作成する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経営学部情報マネジメント学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基本 教育 科目	いしのまき学	本講義では、4年間を過ごす石巻の歴史、自然、産業の特色を、多角的な視点より眺望する。「石巻」を題材として地方都市の特色と抱える問題について考察し、本講義を契機として、地方創成に必要な知識とは何か、解決策を見出すために大学で何を学ぶべきかについて考え、専門科目の勉強に活用することを到達目標とする。	
	復興ボランティア学	本講義では、震災後に発生した地域課題の解決に取り組むボランティア団体や企業のリーダーを講師として招き、講師から学んだ知恵を共有するためグループワークを実施する。震災の教訓を他人に伝えることができるようになること、地域の復興に問題意識を持ち、自分から進んで復興に貢献しようという意欲を持つこと、ボランティア活動に参加し地域に貢献できるようになることが到達目標である。	
	ボランティア論	本講義では、従来の福祉や国際協力だけでなく、環境や災害救援、まちづくりなど多岐にわたるボランティア活動について、理論的側面からのアプローチを通してその変化や意義を時代背景との関連において明らかにするとともに、さまざまな分野でのボランティア活動の具体的事例をもとにその現状と課題について考察することで、受講者がボランティア活動をおこなうにあたって必要とされる素養・知識の修得を到達目標とする。	
	ボランティア演習	本講義は、福祉施設と特別支援教育等の現場を実体験し、指導員や教員等の指導を受けることを通して、大学でのこれまでの学修を省察するとともに、自らあらためて今後の学修への展望を描き、自己の適性や意欲を再確認するために行う。事前指導、一定期間のボランティアの経験、事後指導からなる。事前指導では体験の目的と内容、体験の流れ、事前に準備しておかなければならない事項などを学修する。事後指導では、反省会における「体験をとおして学んだこと」の発表をもとに、ボランティアの経験をふまえて今後の学修をどのように展開すべきかについて指導を行う。本講義では、社会福祉や特別支援における支援ニーズと支援の方法について理解を深めるとともに、ボランティア実践を通してその意義を自分なりに解釈できるようになることを到達目標とする。	
	総合科目	本講義では、現代社会や人間等を取り巻く諸課題についての総合的な理解を通じて、受講生の学問的に対する知的好奇心、学修意欲等を喚起することを目的とする。このため、その時々社会情勢や時代背景等を踏まえ領域横断的なテーマを設定するとともに、テーマに沿って様々な分野で活躍する方を学内外から招き、それぞれの分野や立場からの動向を学生たちに提示していただくことにしている。	
	日本と世界の歴史	本講義では、歴史学の基礎について日本近世史を通して学修する。また、ヨーロッパの歴史を古代から近代までのそれぞれの時代を政治・社会・経済などの多角的な視点から捉えることにより、様々な要素が複雑に絡み合いながら歴史が展開してきたことを認識する。日本近世史を学んで歴史学の基礎を理解すること、ヨーロッパの歴史について政治・社会・経済などを総合的に見据えて捉えることができることを到達目標とする。	
	文化の理解	本講義では、異文化間の諸関係について、多文化社会の典型とされるインド社会を取り上げて学修する。多様性ゆえの民族間・宗教間の紛争とその超克を理念とするインドの精神文化について論じ、文化相対主義的視点を養う。インドの多様性とカースト制に関して論じることができ、インドの歴史が異民族の侵入と社会統合の模索であることを理解し、その思想的背景を理解できることを到達目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要 (経営学部情報マネジメント学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基本 教育 科目	哲学-知の起源-	本講義では、「哲学」とは何か、「哲学」とはいかなる学問かということ考察することを目的とする。古代ギリシアで「哲学」が誕生するまでの経緯およびソクラテス、プラトン、アリストテレスの哲学思想を中心に論じ、「イデア論」、「弁証法」等にも触れる予定である。さらに、これらの思想が近代の哲学やイデオロギーにどのような影響を及ぼしたかを検討すると共に、「哲学」が現代を生きる私たちにとってどのような意味を持つのかを考えたい。	
	心理学-心の科学-	本講義では、人の心理を理解する基盤について、「心の形成」に関わる知覚・性格・人格・発達等の領域を中心に、科学として認められた理論を核としての授業展開を計画している。いかに「心」を測定するかを中心課題とし、実例や事例を駆使して日常的な心的事象や現象に対する科学的な考え方を育成するとともに、「心」に関する理不尽な常識や一部マスメディア等が流す似非科学的解釈からの解放を到達目標とする。	
	社会学の世界	本講義では、個人と社会の基本的な関係について社会学的に考察する。この理解を土台にしてわたしたちが生活をおくる家族・家庭と地域社会について考え、さらには現代社会を理解するために日本社会の変化と高齢化社会の面、個人と社会の関係、現代社会の諸側面について説明できることを到達目標とする。	
	法と社会	本講義では、我々が円滑かつ安全に日常生活を行う上で、不可欠な紛争の解決や加害者への制裁の根拠となる法律について一定の知識を習得する。法律の種類や目的等について理解できるようになることを到達目標とする。	
	法と人権	本講義では、日本国憲法が定める基本的人権と立法・司法・行政三権の統治機構の理解とリーガルマインドの構築を到達目標とする。まず日本国憲法制定の経緯、明治憲法との相違、その骨格をなす基本原則と条文等について考察を行った上で、そこでの議論を踏まえて、国民主権、基本的人権等について論ずる。本講義を通して受講生には、しばしばメディアで取り上げられる憲法をめぐる話題に関心を持ち、憲法に関する理解を広げるとともに、リーガルマインドを持って人権問題について考える姿勢を養ってもらいたい。	
	地域と政策	本講義では、学外から招いた自治体職員等地方行政に携わっている実務家を中心とした講師陣が、政策主体としての自治体という観点から、制度、政策など自治体が当面する課題について論ずるとともに、近年顕著となってきたコミュニティ論に立脚した自治と地域社会の在り方についても取り上げ、地域コミュニティの変遷とコミュニティ理論について概観した上で、まちづくりに当たって必要とされる市民と自治体の連携について考察を行う。行政担当者による施策の解説を通して地域政策について理解することを到達目標とする。	
	生命と地球	本講義では、共通性と多様性を有する生物について、共通する特徴と生物の多様性を中心に講義する。また自分で考えることにより、生物に関する理解を深めるとともに、生物の特徴を理解し、それを日常生活に役立てることができるようになることを到達目標とする。	
	環境と科学	本講義では、科学・技術の発展により生じた社会的問題(トランス・サイエンス)について、自然科学的な観点で解説するとともに、科学的な考え方を理解することを目的とする。トランス・サイエンス的な社会問題を自然科学というフィルタを通して認識し、それについての自分の考えを他者に伝えられる力を養う。	
	健康科学と身体運動	本講義では、スポーツの実践を通して健康の保持・増進、体力の向上に関する知識とその方法、並びにスポーツを通したコミュニケーションスキル等について学修する。スポーツの知識・技能、技術レベルの異なるメンバーと協力しながらスポーツを楽しむために必要なエチケット、コミュニケーションスキル、リーダーシップの発揮、チームとしての問題解決等に関わる個人の資質の修得を到達目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要 (経営学部情報マネジメント学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	経営学入門	本講義では、経営学における代表的な企業の事例を取り上げ、それら企業が提供する顧客価値の優位性とその源泉となっている経営システムの特徴を学修する。学生が、経営学の学び方や基礎的な理論を学ぶことでこの先の専門科目を主体的に学べること、マインドマップやフューチャーマッピングといったメソッドを活用して経営学を学修できること、経営学の理論を活用しながら経営事象についてプレゼンテーションや議論ができることを到達目標とする。	
	会計学入門	本講義では、個人または企業の経済活動を測定・記録し、その結果を個人または企業に利害を持つ人々に伝達する会計に関する知識、特に企業会計を中心とした会計学全般に関する基礎的知識を修得する。会計の学修は、最初に、企業の活動とそれから生まれた価値を測定し記録する技術としての複式簿記の原理、具体的には仕訳や転記などを学ぶことから始まる。本講義では、企業でさまざまな取引が行われている中でも、特に多くの企業で日常よく行われている取引を中心に、企業活動の仕組みとともに、複式簿記の基本原則を理解することを到達目標とする。	
	マーケティング入門	(概要) 本講義では、企業経営におけるマーケティングの役割、歴史的な発展、競争対応化戦略等を理解することを目的とする。マーケティングに不可欠な基礎統計学の学修内容について復習するとともに、GIS (Geographic Information System: 地理情報システム) を活用した商圈分析、マーケティングの基礎知識を教授する。また、なぜ企業や組織においてマーケティング戦略が必要であるかを考察する。学修したマーケティング基礎知識を用いて企業が顧客に最も適した製品やサービスをいかに提供すべきかについて説明できることを到達目標とする。 (オムニバス方式／全15回) (6 関口 駿輔／3回) 基礎統計学の学修内容を復習し、GISの基本的な操作方法を修得した上で商圈分析の基礎概念について学習する。 (18 佐藤 平国／12回) 企業経営におけるマーケティングの役割、歴史的発展、競争対応化戦略などの基礎知識を修得した上で、企業や組織においてマーケティング戦略がいかに必要であるかを考察する。	オムニバス方式
	マーケティングリサーチ	本講義では、顧客のニーズを的確に把握するためのマーケティング・リサーチを実施する上で必要となる基本的な知識と、リサーチ・プロセスを理解することを目的とする。リサーチ課題の明確化やリサーチの種類(定量調査・定性調査)の検討、市場に関する一次データの収集方法、分析の仕方、分析結果の判断などを扱う。これらを多角的に学修することによって、現代におけるマーケティングの実証的研究の基礎をマスターすることを到達目標とする。	
	経済学入門	本講義では、ミクロ経済学とマクロ経済学のそれぞれの分野の基礎を学修する。ミクロ経済学の分野では、需要曲線と供給曲線から導かれる均衡価格、独占、寡占、独占的競争等の産業内競争を主として学ぶ。マクロ経済学の分野では、ミクロ経済学の知見をもとに、GDPとその他の経済指標や貨幣市場、経済政策等について学ぶ。本講義で学修する経済学の考え方を用いて、日々のニュースを読み解くことができることを到達目標とする。	
	ビジネスと情報	本講義では、人工知能やIoTといった新しい情報技術やデータサイエンスの基礎について学び、それらがビジネスの現場でどのように展開されていくかを考察し、今後の社会に必要な知識・思考力の基礎を修得することを到達目標とする。	
	情報と法	本講義では、データや情報の活用に関する法律について学修する。個人情報保護、通信の秘密、プライバシー、知的財産保護などに関する法律を取り上げ、さまざまな事例を読み解きながら、法律を遵守して情報を活用する方法を学ぶ。データや情報の活用に関する法律を理解し、それらを遵守しながらデータや情報を積極的に活用して組織の発展を目指すことができることを到達目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経営学部情報マネジメント学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	基礎数学演習	本講義では、「基礎数学」で扱った内容の問題演習を中心に行い、そこでの学修内容の理解をさらに深め、経営学上の問題を考える際、問題を数理モデル化し数学的に考えることができる力を確実に修得することを到達目標とする。	
	データ分析基礎	本講義では、表計算ソフトなどを用いて実際にデータを解析しながら、より進んだ推測の方法について理解して、実践的なデータ解析の力を修得することを到達目標とする。複数の母集団を比較する方法として平均の差の検定と分散分析、また複数の変数の関係を調べる方法として相関分析と回帰分析（単回帰、重回帰）を扱う。	
	プログラミング基礎	本講義では、コンピュータに問題を解かせるための手順を実際のパログラム言語を使ってコーディングすることを練習する。また、実際に稼動するプログラムを入力し、実行ファイルに変換して実行し、これを元に変更工夫を加えていく方法を学修する。	
	アルゴリズムとデータ構造	本講義では、コンピュータに問題を解かせる際に、処理を行う手順をコンピュータに指示するプログラミングとコンピュータの性質についての知識を修得するとともに、問題解決の手順をコンピュータに理解できるように組み立てるアルゴリズムを学修する。	
	経営情報システム論	本講義では、情報通信技術（Information and Communications Technology：ICT）の導入による新しい社会の変化について取り上げる。具体的には、社会変化を牽引しているICTの発展と我が国および世界の情報通信事情や政策について取り上げる他、ICTを活用して変化するビジネス、地域社会、暮らしについて事例を用いながら学修する。また、ICTは日進月歩の技術であるため、新聞や雑誌等からICTの最新情報や動向も含めて講義する。	
	マルチメディア通信論	本講義では、3Dのモデリングを取り上げ、そこで2Dのデータや3Dのデータの扱い方について実習を行う。モデリングを行うためのソフトウェアとしてBlenderを使用する。また、PureDataというソフトウェアを使用して、サウンドのプログラミングについて実習を行う。Blenderを使って基本的な操作の練習から始め、3Dのモデルを作るための、様々なテクニックについて練習し、講義の最後では応用としてアニメーションの基本的な考え方、キャラクターを使ったアニメーションについて練習する。	
	ロジカルシンキング演習	（概要）本講義では、問題の本質を見極め、正しい解決法を考えるための論理的思考を身につけ、様々な問題に対して論理的に考えて報告するトレーニングを行い、論理的思考およびプレゼンテーションの方法を修得することを到達目標とする。 （オムニバス方式／全15回） （4 関根 慎吾／4回） 演繹法、帰納法、弁証法などの思考法をはじめ、様々なロジカルシンキングのノウハウについて学修する。 （7 舩井 道晴／4回） エビデンスに基づいた問題の本質を見極めるための方法と、現状を客観的にとらえる方法について学修する。 （6 関口 駿輔／4回） エビデンスに基づいた仮説提示と仮説実証の方法について、基礎統計学の内容を基に学修する。 （3 湊 信吾／3回） パワーポイント等を用いた論理的かつ効果的なプレゼンテーションの方法について学修する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(経営学部情報マネジメント学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	経営戦略論	本講義では、経営戦略に関する代表的なケースを取り上げながら、経営戦略の基本的な考え方、戦略策定の際に用いられる分析枠組みを学修する。学生が、経営戦略の基本的な考え方や代表的な分析枠組みの理解と活用方法を修得すること、修得した知識を用いて、現実の経営戦略に関する様々な問題に対して主体的に思考できること、グループワーク等を通じて、問題解決のためのコミュニケーション能力を修得することを到達目標とする。	
	経営管理論	本講義では、ミクロ的管理論と呼ばれる分野、特に人間を活かすマネジメントについて考える。管理とは何か、管理論における人間モデル、管理者の仕事、リーダーシップ、モチベーション等について、学生に適宜ディスカッションやプレゼンテーションを課しながら学修する。学生がビジネスに関する学問の基礎を修得し、新聞・ビジネス雑誌の内容がわかることを到達目標とする。	
	地域経営論	本講義では、地域再生・地域活性化、地域づくりといった地域に企業経営的手法の視点を導入した「地域経営」について学ぶ。具体的には、地域が抱える構造的課題を客観的に分析するとともに、地域経営に必要な理論を学んだ上で、地域で活動する各主体の連携のあり方や具体的な取り組みを取り上げ、解説し、地域資源の活用や地域振興策を展開する上での課題と方向性を考察する。地域社会が抱える構造的問題を把握するとともに、地域振興策を企画立案、実施するために必要な考え方を修得することが本講義の目的である。	
	サービスマーケティング	本講義では、主にサービスの商品特性を踏まえたサービス・マーケティングの体系的かつ実践的な学修を行う。その目的は、モノを対象とするマーケティングとの違いを明確にし、サービスをどのようにして顧客に提供し、満足してもらうか、それを実現するためにいかなる仕組みが必要となるのかを理解することにある。本講義の内容としては、サービスの商品特性を考慮した独自のサービスのマーケティング・ミックス（4P+3P=7P）、サービス品質の評価、従業員満足と顧客満足の関係、さらにはサービス・プロフィット・チェーンの検討を行う。	
	簿記基礎	本講義では、まず会計学入門に引き続き、企業における日常の取引の中で、より複雑な取引事象について複式簿記の理解を深める。その後、決算において、適正な利益を計算するための基本的な手続きを修得する。	
	コンピュータ会計	本講義では、Microsoft Excel等の汎用ソフトやコンピュータ会計ソフトを実際に操作して、財務諸表を作成しながら会計数値の意味を考え、会計システムの検討を行う。コンピュータ会計ソフトで基本的な会計情報の作成、会計データのXMLデータ化、Exce等の汎用ソフトで会計業務を支援する帳票の作成ができるようになることを到達目標とする。	
	経営組織論	本講義では、「組織と環境との関わり」をテーマに「組織のデザイン」と「境界のマネジメント」を中心に学ぶ。現代のように不確実な環境の中でパフォーマンスを高めていくにはどのように組織を設計したら良いのかについて、テキストの単なる理解にとどまらず、さまざまな組織事例（企業、NP0、プロスポーツ組織など）の理論的検討を行う。ビジネスに関する学問の基礎を修得していること、新聞やビジネス雑誌の内容がわかることを到達目標とする。	
	アントレプレナーシップ	本講義では、企業家活動の要件となる「事業機会の探索」と「事業プロセスの構築」に関する基礎知識をグループ学修を通じて学ぶ。前半ではグループで教科書の内容を「マインドマップ」にまとめて発表し、必要な基礎知識を学修する。後半では、企業家活動を体験するため、創造的活動をグループで行う。創造的ツールを使って説得力のあるプレゼンテーションを行えることや制約された課題から新たな付加価値のある製品・サービスのアイデア創造ができるようになることを到達目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要 (経営学部情報マネジメント学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	人材マネジメント	本講義では、経営資源の要となる「人」について学ぶ。欲求ややりがいなど感情を持つ点で他の資源とは異なる「人」を活かすマネジメントとは何かを考える。管理論における人間モデル、管理者の仕事、リーダーシップ、モチベーション、雇用管理、賃金管理、キャリア開発、ワークライフバランス、ダイバーシティ等について学修する。ビジネスに関する学問の基礎を取得していること、新聞・ビジネス雑誌の内容がわかることを到達目標とする。	
	財務管理論	本講義では、財務管理論の基礎理論の理解とともに、主に資金調達の問題について最近のトピックスを交えながら学修を進める。株式会社とは何か、企業資本の分類、企業形態の意味、株式による資金調達、証券の多様化、社債や借入による資金調達、ベンチャー・ファイナンス、企業形態と資金調達の今日的課題等について学修する。財務管理論の各講義テーマと該当する教科書の内容が理解できること、また、新聞等のメディアで取り上げられた現実の財務活動が理解できることを到達目標とする。	
	地域産業論	本講義では、地域経済の実態を具体的に示しながら、最新の状況を把握する。地域経済論の基礎的な理論の他、地域の産業構造に対する理解を深めるとともに、自ら地域の実態調査を実施する。これらを学修することによって、地域の産業構造を理解し、地域の一員として何ができるかを理論的に考える力を養う。	
	経済理論	本講義では、東北圏において都市規模が今後どのように変化していくのかを自らの手で推計し、経済学及び統計学の基礎知識を用いて人口減少がもたらす影響を定量的に評価する。最終的には、東北圏の人口推計を行い、人口変動による効果を経済学、統計学に基づいてシミュレーションし、地理情報システム (Geographic Information System : GIS) を用いて”見える化”できる能力を修得する。(東北圏人口推計は東北7県別性別年代別に推計を行う)	
	金融論	本講義では、わが国の金融に関して、マクロ経済の視点、金融政策の視点、金融制度の視点から金融に関する基礎的な知識を学び、金融を通じて経済を見る眼を修得する。日本の金融機関や金融市場、日本銀行の役割と金融政策、金利等について学修する。学生が資金循環、金融機関、金融市場、金融政策、金利、決済制度といった金融の基本事項についての知識を修得することができることを到達目標とする。	
	経営科学	本講義では、経営において発生する問題を、数理的な方法によって解決を試みる方法を俯瞰していく。演習やグループワークを取り入れながら、オペレーションズ・リサーチとは何か、在庫管理、データ予測、日程計画、AHP、ゲーム理論、安定結婚問題、線形計画問題等について学修する。学生が「数理的に考える」とはどういうことなのか、またその重要性、応用の広さを理解することを到達目標とする。	
	応用統計学	本講義では、現代社会において必要不可欠な学問である統計学を取り扱い、データ分析の知識および論理的思考力を養うことを主要な目的とする。具体的には平均、標準偏差の定義や、グラフ表現を与えるという記述統計から始め、さらに、推測統計の導入として確率分布の話題を取り扱い、主要な確率分布の性質を紹介する。数学は体系的な学問であるので、「基礎統計学」で扱った内容を再度解説し、応用まで理解することを到達目標とする。	
	経営情報論	本講義では、重要な経営資源の1つとなっている情報を企業経営に有効活用するための方法を学修する。経営で活用される情報のタイプ、情報の収集・分析・管理・共有方法について理解する。統計解析のソフトウェアやデータベースを操作するソフトウェア等を活用しながら、経営情報の分析・管理方法について実践的に学ぶ。経営情報を重要な経営資源と位置づけ、企業の競争優位や成長の実現を目指すための基礎的な素養を修得することを到達目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要 (経営学部情報マネジメント学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	経済データ分析	本講義では、実際のデータを用いて経済理論を実証分析する。具体的には、GDP統計や地価統計などを用いて、経済モデルとの合致点あるいは相違点をMicrosoft Excelや統計解析ソフトRなどによって分析する。実証分析結果を理解する能力を修得するとともに、ExcelやRを用いることで経済分析に用いるデータの取得方法や処理方法を身につけ、社会で使えるデータ分析手法を修得するのが目的である。	
	データ分析応用	本講義では、データ分析基礎の内容を踏まえ、論理的思考力を養うことを主要な目的とする。標本分布、推定、検定などの主要な話題をはじめ、ベイズ統計など、受講者が興味を持ち、適切と思われる題材を選んで講義をする。数学は体系的な学問であるので、初歩的な基礎部分から丁寧に解説し、応用まで理解することを到達目標とする。	
	データマーケティング	本講義では、マーケティングリサーチを実施する上で必要となる基本的な知識とプロセスを理解できるようになることを目的とする。授業内容としては、リサーチ課題の明確化やリサーチの種類の検討、データの収集方法、分析の仕方、分析結果の判断などを扱う。これらを多角的に学修することによって、現代におけるマーケティングの実証的研究の基礎をマスターする。	
	データベース論	本講義では、その技術の中で最も利用が一般化しているリレーショナルデータベースを中心に取り上げる。まず、インターネットによる情報検索について学び、利用することで情報共有・情報活用の実際を体験した後、実際にデータベース管理システムを用いて、リレーショナルデータベースを作成し、活用する実習を行う。これらを通じて、データベースの仕組みについて理解し、実際に利用できるようになることが到達目標である。	
	オペレーティングシステム論	本講義では、コンピュータに必要なデバイス（装置）の説明から始め、OSが持っている機能との関係について説明する。それからLinuxのインストールを例に、インストールする上で必要な知識について具体的に説明する。最近の話題として仮想マシンや仮想サーバ、並列分散処理やビッグデータ、スマホで用いられているOSの例としてAndroidについて解説し、最後にIoT機器について説明する。また、授業においてコンピュータの故障の原因になること、OSのメンテナンスやセキュリティ、消費電力や発熱量を考慮する必要性などについて取り上げて具体的な説明を行う。	
	通信ネットワーク論	本講義では、コンピュータ2台から構成される簡単なコンピュータネットワークから始め、巨大で複雑なインターネットの仕組みまで解説する。簡単な原理によってコンピュータネットワークが運用されているのだということを理解してもらうことが到達目標である。	
	地域ICT戦略論	本講義では、社会やビジネスの中での実際の活用事例を学ぶことでICTの基礎的な知識を修得する。その上で、地域だからこそ活きるICTを活用した事業をグループに分かれて立案する演習を行う。これらを通じて、Society5.0の世に必要な知識を得るだけでなく、その知識を活用するための技術も養う。	
	プログラミング応用	本講義はスマートフォン／タブレット向けのアプリケーションの作成を通じてプログラミングのスキルを修得し、「新しいサービスを生み出す」という意識を身に付ける。ビジネスにいかに関活用できるかを考えることができ、自らサービスを作り出すことができることを到達目標とする。	
	情報システム管理論	本講義では、「システム管理」、「ネットワーク管理」と「セキュリティ」の3つのテーマを中心に、事例を列挙しながら情報システム管理およびネットワークシステム管理の基本概念、理論および方法について学修する。	

授 業 科 目 の 概 要 (経営学部情報マネジメント学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	情報システム設計論	本講義では、経営において活用されている様々な情報システムについて理解し、設計方法を学ぶことを目的とする。システムを構築するには、人間系システムとコンピュータ系システムが効果的に協調作業できるように計画・設計されなければならない。このためには、システムを構成する活動（業務）とシステム間を流れる情報（データ）とに着目することが重要である。このような観点から、「業務」と「データ」を軸に据えて情報システムの設計方法を学修する。	
	情報マネジメントセミナー	情報マネジメント学科では3年次からゼミナールに所属する。ゼミナールごとに必要な知識は様々であるが、どのゼミナールにおいても高度な知識・技術、学ぶ意欲が必要となる。そのための準備として、本講義では、ゼミナール担当教員が各自の専門分野に関する最新トピックを講義し、受講者の興味・関心を高めることを目的とする。	
	ゼミナールⅠ	本講義では、指導教員の下、少人数で「地域」「ビジネス」「ICT」など自らの興味・関心のあるテーマ・課題について深く研究を進めていく、文献読解・調査・プレゼンテーション・ディスカッション・レポート作成等を通じて、より専門的な知識を修得し、論理的思考や創造性を養う。	
	ゼミナールⅡ	本講義では、ゼミナールⅠに引き続き、自らの興味・関心のあるテーマについて指導教員の下で深く学ぶ。文献読解・調査・プレゼンテーション・ディスカッション・レポート作成等を通じて、より専門的な知識を修得し、論理的思考や創造性を養う。	
	卒業研究	本講義では、ゼミナールⅠおよびゼミナールⅡで学んだ基礎的な知識や技術を活かして研究を遂行する。研究計画から論文完成に至るまで、研究上で遭遇する様々な課題に対する解決能力を身につける。また、論文作成、口頭発表などを通して結果のまとめ方やプレゼンテーションを行う能力を身につける。	
	情報マネジメント特別科目Ⅰ（経営システム）	本講義では、新しい情報技術や理論を応用し経営における諸課題を効率よく解決するための手法に関して、各教員がそれぞれの専門分野の見地からの講義を行い、専門科目やゼミナールで扱った内容についての理解を深める。また、講義形式による解説に加え、ディスカッションやプレゼンテーションなどのグループワークを重視する。	
	情報マネジメント特別科目Ⅱ（データ分析）	Society5.0に代表されるビッグデータやオープンデータなどを活用した社会への転換やデータを基にした制度設計に対応できる人材を育成するべく、本講義ではデータ分析に関連の深い先端的なトピックについて、各教員がそれぞれの専門分野の見地からの講義を行い、専門科目やゼミナールで扱った内容についての理解を深める。	
	情報マネジメント特別科目Ⅲ（プログラミング）	小学校の教育課程に導入されるなど、ICTの根幹とも言える「プログラミング」に注目が集まっている。本講義では、実際にアプリケーションやシステムを構築することで、プログラミングスキルを向上させるとともに、そのアイデアをビジネス・サービスにどのように展開できるかを学修する。	
	情報マネジメント特別科目Ⅳ（情報システム）	電子マネーやQRコードによる決済など、スマートフォンなどを活用したサービスが日常生活に浸透してきた。それに伴い、高度なセキュリティや信頼性の高い通信ネットワークの需要はますます高まっている。本講義では、新しい技術の発展・普及に必要な情報システムに関して、各教員がそれぞれの専門分野の見地からの講義を行い、専門科目やゼミナールで扱った内容についての理解を深める。また、講義形式による解説に加え、ディスカッションやプレゼンテーションなどのグループワークを重視する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(経営学部情報マネジメント学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	情報マネジメント特別科目 V (人工知能)	本講義では、先進的な企業の事例等を通じて、IoTや機械学習、AIなどの技術・理論を活用したビジネスの発展を学ぶ。併せて、Python等のプログラミングの学習を通じて、実際にそれらがどのような技術かを理解する。知識だけではなく技術も含めて理解をし、扱えるようになることで、今後の社会、ビジネスの根幹を担う人材を育成することが本講義の目的である。	
	情報マネジメント特別科目 VI (地域産業)	本講義では、人口減少などの多くの課題を抱える今後の社会の中で、地域の中で伝統的に育まれてきた産業を維持・発展させていくためにはどのような制度や取り組みが必要となるかを学ぶ。机上の学習だけではなく、必要に応じてフィールドワークなどの調査を行うことで、「データで語る」ための手法を身につけることも本講義の到達目標とする。	

学校法人専修大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
専修大学					専修大学					
経済学部	現代経済学科	265	—	1,060	経済学部	現代経済学科	265	—	1,060	
	生活環境経済学科	266	—	1,064		生活環境経済学科	266	—	1,064	
経済学部	国際経済学科	220	—	880	経済学部	国際経済学科	220	—	880	
法学部	法律学科	533	—	2,132	法学部	法律学科	533	—	2,132	
法学部	政治学科	164	—	656	法学部	政治学科	164	—	656	
経営学部	経営学科	373	—	1,492	経営学部	経営学科	373	—	1,492	
経営学部	ビジネスデザイン学科	180	—	720	経営学部	ビジネスデザイン学科	180	—	720	
商学部	マーケティング学科	438	—	1,752	商学部	マーケティング学科	438	—	1,752	
商学部	会計学科	210	—	840	商学部	会計学科	210	—	840	
文学部	日本文学文化学科	122	—	488	文学部	日本文学文化学科	122	—	488	
文学部	英語英米文学科	152	—	608	文学部	英語英米文学科	152	—	608	
文学部	哲学科	76	—	304	文学部	哲学科	76	—	304	
文学部	歴史学科	142	—	568	文学部	歴史学科	142	—	568	
文学部	環境地理学科	55	—	220	文学部	環境地理学科	55	—	220	
文学部	ジャーナリズム学科	124	—	496	文学部	ジャーナリズム学科	124	—	496	
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	235	—	940	ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	235	—	940	
人間科学部	心理学科	77	—	308	人間科学部	心理学科	77	—	308	
人間科学部	社会学科	147	—	588	人間科学部	社会学科	147	—	588	
国際コミュニケーション学部	日本語学科	71	—	284	国際コミュニケーション学部	日本語学科	71	—	284	
	異文化コミュニケーション学科	150	—	600		異文化コミュニケーション学科	150	—	600	
計		4,000	—	16,000	計		4,000	—	16,000	
専修大学大学院					専修大学大学院					
経済学研究科	経済学専攻(M)	30	—	60	経済学研究科	経済学専攻(M)	30	—	60	
経済学研究科	経済学専攻(D)	3	—	9	経済学研究科	経済学専攻(D)	3	—	9	
法学研究科	法学専攻(M)	25	—	50	法学研究科	法学専攻(M)	25	—	50	
法学研究科	民事法学専攻(D)	3	—	9	法学研究科	民事法学専攻(D)	3	—	9	
法学研究科	公法学専攻(D)	3	—	9	法学研究科	公法学専攻(D)	3	—	9	
文学研究科	日本語日本文学専攻(M)	10	—	20	文学研究科	日本語日本文学専攻(M)	10	—	20	
文学研究科	英語英米文学専攻(M)	5	—	10	文学研究科	英語英米文学専攻(M)	5	—	10	
文学研究科	哲学専攻(M)	5	—	10	文学研究科	哲学専攻(M)	5	—	10	
文学研究科	歴史学専攻(M)	10	—	20	文学研究科	歴史学専攻(M)	10	—	20	
文学研究科	地理学専攻(M)	5	—	10	文学研究科	地理学専攻(M)	5	—	10	
文学研究科	社会学専攻(M)	5	—	10	文学研究科	社会学専攻(M)	5	—	10	
文学研究科	心理学専攻(M)	10	—	20	文学研究科	心理学専攻(M)	10	—	20	
文学研究科	日本語日本文学専攻(D)	3	—	9	文学研究科	日本語日本文学専攻(D)	3	—	9	
文学研究科	英語英米文学専攻(D)	2	—	6	文学研究科	英語英米文学専攻(D)	2	—	6	
文学研究科	哲学専攻(D)	2	—	6	文学研究科	哲学専攻(D)	2	—	6	
文学研究科	歴史学専攻(D)	5	—	15	文学研究科	歴史学専攻(D)	5	—	15	
文学研究科	地理学専攻(D)	3	—	9	文学研究科	地理学専攻(D)	3	—	9	
文学研究科	社会学専攻(D)	3	—	9	文学研究科	社会学専攻(D)	3	—	9	
文学研究科	心理学専攻(D)	3	—	9	文学研究科	心理学専攻(D)	3	—	9	
経営学研究科	経営学専攻(M)	20	—	40	経営学研究科	経営学専攻(M)	20	—	40	
経営学研究科	経営学専攻(D)	3	—	9	経営学研究科	経営学専攻(D)	3	—	9	
商学研究科	商学専攻(M)	10	—	20	商学研究科	商学専攻(M)	10	—	20	
商学研究科	会計学専攻(M)	15	—	30	商学研究科	会計学専攻(M)	15	—	30	
商学研究科	商学専攻(D)	2	—	6	商学研究科	商学専攻(D)	2	—	6	
商学研究科	会計学専攻(D)	2	—	6	商学研究科	会計学専攻(D)	2	—	6	
法務研究科	法務専攻(専門職学位課程)	28	—	84	法務研究科	法務専攻(専門職学位課程)	28	—	84	
計		215	—	495	計		215	—	495	
石巻専修大学					石巻専修大学					
理工学部	食環境学科	40	—	160	理工学部	食環境学科	40	—	160	
理工学部	生物科学科	55	—	220	理工学部	生物科学科	55	—	220	
理工学部	機械工学科	40	—	160	理工学部	機械工学科	40	—	160	
理工学部	情報電子工学科	35	—	140	理工学部	情報電子工学科	35	—	140	
経営学部	経営学科	190	—	760	経営学部	経営学科	145	—	580	定員変更(▲45)
					経営学部	情報マネジメント学科	45	—	180	学科の設置(届出)
人間学部	人間文化学科	40	—	160	人間学部	人間文化学科	40	—	160	
人間学部	人間教育学科	40	—	160	人間学部	人間教育学科	40	—	160	
計		440	—	1,760	計		440	—	1,760	
石巻専修大学大学院					石巻専修大学大学院					
理工学研究科	物質工学専攻(M)	3	—	6	理工学研究科	物質工学専攻(M)	3	—	6	
理工学研究科	生命科学専攻(M)	5	—	10	理工学研究科	生命科学専攻(M)	5	—	10	
理工学研究科	物質機能工学専攻(D)	2	—	6	理工学研究科	物質機能工学専攻(D)	2	—	6	
理工学研究科	生命環境科学専攻(D)	2	—	6	理工学研究科	生命環境科学専攻(D)	2	—	6	
経営学研究科	経営学専攻(M)	3	—	6	経営学研究科	経営学専攻(M)	3	—	6	
経営学研究科	経営学専攻(D)	2	—	6	経営学研究科	経営学専攻(D)	2	—	6	
計		17	—	40	計		17	—	40	